

ひとりひとりひかる

き ぼ う

2017 4/1
第 88 号

発行 : かしの木の会/かしの木の里内 一宮市富田字砂原 2147
かしの木 ホームページ [http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)



らでうす

らでうす 竣工

88号 きぼうの目次

生活介護事業所「らでうす」が、3月4日竣工致しました。

「らでうす」とは、ラテン語で“光線や放射”を意味する言葉です。

「ひとりひとりひかる」個性を持った方が集う場所となり、また、その光輝く個性を地域に向けて発信していく事を願っています。



- 表紙・写真・目次・・・・・・・・・・・・ P. 1
- 法人コーナー①/らでうす・・・・・・・・ P. 2
- " / " ・・・・・・・・ P. 3
- 法人コーナー②/グループホーム・・・・ P. 4
- 法人コーナー③/ステップ・・・・・・・・ P. 5
- 法人コーナー④/キーぷ・・・・・・・・ P. 6
- 法人コーナー⑤/おやまのカフェ・・・・ P. 7
- 法人コーナー⑥/ご寄付のご報告・・・・ P. 8
- かしの木の会コーナー①/バザー委員会・・・ P. 9
- かしの木の会コーナー②/成人式・就労1年・ P. 10
- 法人コーナー⑦/樫の木交流会・そうぞうの扉展・・・ P. 11
- お知らせコーナー/行事予定・・・・・・・・ P. 12

法人コーナー①

「らでうす」が始動します！

檜の木福祉会は、新年度オープンを目指し、この度生活介護施設「らでうす」を建設しました。

「らでうす」の規模は、以下のとおりです。

○敷地面積：1,813㎡

○建築面積：499㎡

○利用定員 20人

さて、当法人では各施設の運営体制において、これまで利用定員を上回る事態が続いておりました。一方では、生活介護等の施設を利用したいという地域のニーズは、後を絶ちません。私たちはこの状況を鑑み、検討を重ね、紆余曲折の後、結果新たな施設を建設する運びとなりました。

この事業は、①各事業所の利用者様への個別ニーズ対応を十分なものにする、②利用者様の加齢化、メンタル面の変化に対応する、③地域ニーズに答えられる福祉サービスの提供、を力点に準備を進めてきました。

そして、遂に平成29年2月21日に「らでうす」は完成し、同年3月4日、晴天の中竣工式及び内覧会が行われました。式典には、来賓及び役員の皆さま、利用予定者の皆さま、保護者の皆さまなど大勢の方々にご参列いただきました。



最初は神事で、御裳神社の安田宮司様により厳かに執り行われました。利用予定者の皆さんも神妙な面持ちで参列されていました。

式典では、北川理事長は、まず「らでうす」建設に至る協力者各位への御礼を述べ、社会全体の福祉の状況、当福祉会の実情、新施設建設の期待と展望について話されました。また、一宮市の真野福祉部長様、一宮市議会の渡辺議長様、岩村県議会議員様、一宮市社会福祉協議会の河村会長様各位よりは、県及び一宮市の障害者施策、社会福祉法人の社会的使命、檜の木福祉会への期待などについてそれぞれ話されました。



次に、北川理事長より、多額のご寄付をお寄せ下さいました藤後様、快く土地をご提供いただいた中島菊生様、夢ポケットチームリーダーの鈴木照様、設計工房「庵」様、澤崎建設様にそれぞれ感謝状が手渡されました。



最後に利用予定者代表の挨拶として、丹下さんが、「らでうす」に寄せる思いについて、しっかりとした言葉で挨拶されました。また、保護者代表の水谷様は、スタッフに対する思いと協力について、熱く語られました。

(次頁につづく)



檜の木福祉会の数ある竣工式のなかでも、非常に格調の高いものであると感じました。

午後からの内覧会では、地元の皆様、福祉関係者の皆様、檜の木福祉会の利用者及び保護者の皆様、法人職員など大変多くの来場者にお越しいただきました。

このように、「らでうす」の竣工を無事迎えることができましたのも、一重に私たちが地域のニーズに背中をおされ、そして地

元の皆さまに温かく見守られ、さらに協力者・関係者の皆さまのお力添えがあつてのことと、改めて心から厚く御礼を申し上げます。一方では、檜の木福祉会のスタッフが一丸となって、協力していただいたことも忘れてはなりません。本年4月1日からの開所にあたり、皆さまの期待に応える事業にまいります。今後とも、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

大川 哲弥

法人コーナー②

グループホーム支援センター はぎわら・びさい・やまと

檜の木福祉会がグループホーム（以下、GHと記す）を開設して、早や11年を迎えようとしています。開設当初は、毎年10名分の居住の場を提供出来るよう進めてまいりました。

現在は、3つのグループホーム支援センター（以下GHCと記す）で、合計15か所のホームに58名の入居者様が生活されています。



（法人認可GH第一号：こぶしの家）

1 支援体制の現状について

【GHCはぎわら】

開設当初は、入居者様の自立性を尊重する運営体制で、スタートしましたが、10年を過ぎれば加齢化に伴う身体機能の変化等により、ホームでの生活における入浴等の支援の度合いが高くなっています。

【GHCびさい・やまと】

開設当所から、入居者様個々の支援の内容に対応できるよう、「はぎわら」に比べてスタッフ配置を厚くしてきました。また、入浴介護の一部分については、居宅介護事業所のサービスも併用しています。いくつかのホームでは、入居者様が週末に帰省し、自宅で過ごすことが多いのが現状です。

【スタッフについて】

特に、非常勤の世話人さんは年齢的に60～70歳代が多く、ご自身の体調、親・兄弟の介護等で離職を余儀なくされている状況もあり、今後の人材の安定的確保が急務になっています。

【短期入所について】

H26年に「オリーブの家」、H27年に「はなももの家」がそれぞれ開設され、いよいよ短期入所の場所が（かしの木の里以外に）確保されましたが、未だ十分な利用には至っていないのが現状です。



（法人自力整備GH第1号：

さつきの家・かえでの家）

2 今後のGHの展開（課題等）について

平成26年4月より、一元化され名称もグループホームとなりました。制度が変更され、今まで利用していたサービスは継続出来ていますが、GHの今後の展開には大きな支障をきたす事となりました。

例えば、檜の木福祉会は、これまで比較的容易に確保できる賃貸物件を活用してGHを整備し、入居者様にサービスを提供してきましたが、消防設備等の設置義務等変更が大きな課題となりました。愛知県及び一宮市の規制緩和策内のGH認可措置も模索しましたが、戸建賃貸物件を規制緩和策に合わせたホームにしようとする、設備整備の条件や費用等、賃貸物件では難しい点がいくつも出てきました。もちろん、平成29年度は、既存のGHの設備改善にも大きな投資が必要です。

法人にとって、ホーム（施設）の改善や職員配置の効率化を踏まえ、各事業所との相互支援体制を構築しながら、GHC全体運営の適正化が緊急課題となっています。

（GHC 小関）

法人コーナー③

ステップ 「農福連携」

皆さん、「農福連携」という言葉を耳や目にしたことありますか？昨今、新聞などでも「農福連携」という言葉を目にすることがあります。字の如く、農業と福祉の連携。農業と福祉のそれぞれの課題に対し、改善を図る取り組みです。それぞれの課題とは、農業では人材不足や後継者不足、福祉だと仕事の確保や拡充、工賃アップなどが挙げられます。農業分野では、農林水産省、地元では東海農政局が、（障がい者）福祉との協働を働きかけてくださっています。具体的には、障がいのある方が農業をしている福祉事業所の実態調査を行ったり、「就労促進ネットワーク」で福祉事業所に情報を提供して下さったり、実践を行っている事業所の現地見学会や「農福連携推進フォーラム」といった研修会、実践報告会などを催されたりしております。

ステップでは、数年前、愛知県内の有志が集い農福連携を進めるプロジェクトに参画していました。その中に農業側として、地元の（有）角田ナーセリー様もいらっしゃいました。それ以来、業務提携を今日まで継続しております。

一宮市障害者自立支援協議会就労支援部会でも“すろーぶ”を中心に「農福連携」の話をしています。平成28年度は、JA愛知西様よりキャベツの収穫やネギの加工調整の仕事の話を頂戴しました。ステップではネギの加工調整の仕事を2月に行いました。作業内容としてはネギの皮をむき調整し選別をするものです。始めたばかりで、双方手探りの段階ですが、進めていく中で課題はいくつか見えてきました。

1つは、仕事が途切れてしまう可能性があること。取り扱う物は生き物、野菜です。どうしても天候に大きく左右されます。野菜の育ち具合、生産・収穫量、品質によって作業員の仕事量が大きく影響を受けます。なかなか予定・計画を立てたととしてもその通りにはいかないことも多いようです。

次に、作業工賃の部分。JA愛知西様は社会貢献を掲げ、収益目的ではなく「農福連携」を進めてくださいますが、一般の農家さんや企業で、果たして

“効率が良いとは決して言えないかもしれない仕事”に対する対価をどうするか。利用者の工賃をどう確保するか。そして農業体へのメリットは？人件費削減？繁忙期の人員確保？社会貢献？・・・果たして??? 一番大きなメリットは、農福連携した作物に付加価値が付き、流通分野も巻き込み収益に繋げる（課題と目標）・・・ということかもしれません。更に、6次産業までできたら素晴らしいですね（夢）。

「福祉」、「農業」（できれば「流通」も含め）が、お互いにWinWinの関係になるには、どうしたら良いのでしょうか。いろいろな分野の方々「協働」し、知恵を出し合うことが必要かと思われま

話は変わりますが、大変お世話になっている企業の社長との話です。話の内容は、障害者雇用に関することで、社長が最近関わった福祉業界の人から感じたことです。要約すると、「考え方が福祉すぎ、利用者目線過ぎて、企業側の立場が全く感じられない。」社長は、残念そうにおっしゃっていました。これまで福祉に対し多大なるご理解・ご協力を賜り、障害者雇用を進めてくださってきた方にそのように思わせてしまった事に対して、とても申し訳ない気持ちになりました。利潤・効率を追求する企業、一方、障がいのある人の自立を尊重し、時として非効率的なことをする福祉には相反する面があります。社会の情勢としては、県の最低賃金の上昇、障害者雇用率のアップ、精神障害者の雇用の義務化などがあり、企業にとっては一方的にハードルが上げられる思いがするかもしれません。

障害のある方の事を考えていだけが福祉ではないと考えます。就労移行支援事業所としては、障がいがある方々を一般就労に進めるためには、企業の立場を考えていくことも責務と言えます。企業と福祉、お互いの歩み寄りが大切ですが、そのためには相手を知ることが大切です。自分の考えが福祉寄りなのか、一般・企業寄りなのかを客観的に観ることができる視点が大切です。どちらが正しい、間違っているということではなく、その時その時で、どう考えるか、議論し合うことで相互理解が進むと考えます。

企業も福祉も障がいのある人、ない人、すべての人がWinWinの関係になれますように。

ステップ 川口 孝行

法人コーナー④



こんにちは『きーぶ』です

居宅介護事業所「きーぶ」の事業所は、小学1年生～65歳の方で、発達障害、知的障害、精神障害、身体障害、重度心身障害、視覚障害の方のお家での生活支援である、(身体介護・家事援助・通院介助) 余暇の支援、(移動支援) 生活のリズムを整える (行動援護・重度訪問介護) 視覚障害の方の (同行援護) 4つの事業を行っています。

平成17年8月に「きーぶ」が立ち上がり早いもので、今年で12年目になります。スタートした時は4名のスタッフと10名程の利用者様。12年の月日が経ち現在50名のスタッフと200名程の利用者様になりました。始めのころは、緊急依頼が舞い込んでくると、無我夢中で受けていました。次第に地域の障害の方のニーズに合わせて、耳・目・頭・身体・その他を使い多様な内容に出来るよう頑張ってきました。そんな月日を重ねて色々な方と出会い、そして教えて頂き、気づいて、築いて知識・技術・感性・心に沢山の宝物を詰め込む事ができました。それでもまだまだ勉強することばかりです。

一宮市で行動援護を行っている事業所が少なく、一宮市の9割を「きーぶ」が行っています。コミュニケーションが上手くとれず、環境の変化にとっても弱い自閉症の方は、自分の思いが相手に伝わらない事で多くの我慢や失敗を重ねています。本人が一番困っているのに、支援者側からはとても大変な人にされてしまい、「強度行動障害」なんて本当はその人にならぬ障害名まで付けられてしまいます。時には、パニックを力づくで抑えようといきすぎた支援方法が虐待に繋がっていく……。私達が、きちんと正しい知識で本人にあった支援をすれば・・・彼らの心は満たされて、問題とされる行動など起きないはずです。

もっと多くの支援者の方に知識と技術を身につけて頂き、「困った」が少なくなり、悲しい行動が無くなっていくことを願います。

「きーぶ」の支援を通して、多くの方の学童期から大人へと成長されていくのをご一緒させて頂きました。絵カード・予定スケジュール・タイマーなど色々な道具を使いアセスメントをとりながら支援をしてきました。失敗しては修正をしての繰り返し、凹む事も多くありました。でも出来なかった事が出来るようになったり、相手の事が理解出来たりした時は、本当に思いが繋がったかのように嬉しくなります。お互いが笑顔になって、そのことが励みになり力になっています。

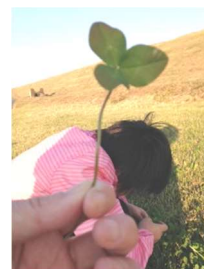
又最近、学校へ上手く通えなくなっている発達障害のお子さんの支援も増えてきました。障害が目で見えて分からないので、わがままな子、癩癩もちの子などと、周りの方から見られてしまうため、その環境に上手く馴染めなかったり、相手の気持ちや状況を読み取る事が苦手で、空気の読めない子と言われて仲間と上手く関われなくてつまづいてしまいます。早期に正しい知識をもった、よき理解者に出会える事が彼ら達の躓きを少なく出来るのではないかと思います。

「私、山口さんとのこの時間は大切な時間だと思うな～」つい最近関わっている10歳の発達障害の女の子に言われた言葉です。人との出会いは「一期一会」です。

これからも私は本当にこの時間をひとつひとつ大切に、素敵な時間を皆さんと関わっていきたくと、強く思いました。

by きーぶ管理

山口由美子



法人コーナー⑤

療育サポートプラザ・チャイフ

おやまのカフェです

おやまのカフェでは毎週金曜日にサンドイッチモーニングをやっています。ふわふわパンのサンドイッチをモーニングサービスで提供させていただいています。おじいちゃんからお子様まで喜んでいただけるサンドイッチです。(写真はスペシャルモーニング:ドリンク代+100円)



さわやかなカフェの店内でふわふわのサンドイッチはいかがですか？

お孫さんと一緒にぜひご来店ください！！
お子様連れのお客様が多いおやまのカフェですが、電話予約を承っております。
営業時間内ならいつでも予約していただけます。お子様を待たせず、安心して来ていただけます。



晴れた日であればランチの後にお子様は芝生広場で、お母様やおばあちゃんは店内でゆっくりなんて過ごしかたものんびりしてい

いですよ。
おやまのカフェの手作りシフォンケーキもご好評いただいております。

いつも心を込めて焼き上げるシフォンケー



キは、ほんのりレモンの香りとコーヒーによく合う甘さでリピート率

もナンバーワンです。作っているスタッフも直接お客様に「おいしい！」とってもらえるので、とても頑張ってお作ってくれています。



かしの木サポートプラザ
就労継続支援 B型事業
おやまのカフェ 山田

待つことが難しい方や、大人数でご利用の方向けに団体様用のファックス注文用紙も準備しております。あらかじめ注文しておくのでお待たせしないでお利用いただけます。詳しくはおやまのカフェまでお問い合わせください

一宮市北丹町2番地
療育サポートプラザチャイフ
おやまのカフェ
☎0586-28-8288

AM8:00~PM5:00 (日・祝定休日)
モーニング AM8:00~AM11:00
ランチ AM11:00~PM2:00
日替わりランチは毎日やっています！
限定食数での営業になっておりますので
売り切れの際はごめんなさい

法人コーナー⑥

檜の木を慰問していただきました！

昨年12月9日（金曜日）、一宮市赤十字奉仕団の皆さまが、当福祉会の法人本部を訪問されました。奉仕団様は、委員長の高橋様を中心に、広く分け隔てなく一宮市内の社会奉仕活動をされており、今回もその年末慰問事業の一環として、当法人を慰問していただきました。



慰問の際には、かしの木の里の利用者の皆さまが、代理でコーヒーやお茶などの詰め合わせ（慰問物品）を受け取られました。また、奉仕団の皆さまは、当日用意された各事業所の自主製品を、ごっそりご購入してくださり、授産事業の売り上げに大いにも貢献していただいております。



北川登理事長は、丁重にお礼の言葉を述べられたあと、檜の木福祉会が直面している問題などをざっくばらんに話されました。団員の皆さんは、一言一言に深く頷かれておられました。また、来年もその次の年も、ずっとずっと先もお越しくください。本当に有難うございました。

今年もご寄付いただきました

昨年に続き、ホットなお話をご紹介します。2月14日（火）、愛知県立木曾川高等学校の生徒さん3人（大西さん、春日井さん、江口さん）と斎藤先生が、当法人本部を訪問されました。「本年度実施した、木曾川高校校内バザーなどでの収益金を、檜の木福祉会に寄附させていただきます。」との申し出をお受けしました。



昨年度は、みぞれ混じりの悪天候の中お越しいただきましたが、今回は穏やかな晴天に恵まれました。北川理事長は、3人の生徒さんと斎藤先生に丁重に御礼を述べるとともに、高校生活の様子を尋ねるなど和やかなひと時を過ごされました。すると、1人の生徒さんが、北川理事長のご近所であることが分かり、生徒さんとの親近感が一層増した感じがしました。



木曾川高校様には、昨年の9月24日、ブラズバンドの演奏会に、当法人の全利用者・職員がご招待いただきました。また、当法人の職員に、木曾川高校の卒業生の方が多数活躍されています。

この紙面お借りし、心から深く感謝を申し上げます。

本部事務局 橋本

かしの木の会コーナー①

バザー委員会活動報告




今回はバザー委員会事業の中で、皆さんがほとんどご存知ない裏方の作業についてご報告したいと思います。バザー委員会では、かしの木フェスティバルを含め、年間十数回の手作りの品販売バザーに出店しています。週末のバザーに備え、毎回委員会役員4名で数十種類の商品の中から、その時期やお客様の年齢層、前年の売り上げ傾向などを参考に、在庫調整をしながら商品を選び荷造りをしています。値札付けやバザー当日のディスプレイを想定して、必要物品を揃え、バザー会場の広さに合わせて、商品の量を調整します。大サイズのクリアケース7箱前後に収めるようにしています。

この手芸品製作に関わってくださる方は、現在のところ地域ボランティアさんを含め十数名です。バザーが立て込む9月から12月初旬にかけては、商品が尽きることはないように、いつも以上に製作に力を入れております。それと同時にこの荷作り作業およびバザー当日の販売と、秋のバザーシーズンは多忙を極めます。



バザー会場などでお客様の喜びの声を聞かせていただきますと、心の底から「みんなで頑張った良かった」と思い、その忙しさも報われます。これからも、皆様に喜んでいただける商品作りに努めますので、ご意見ご感想などお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。また、バザー販売だけでなく個別注文にも対応いたしますので、青山(090-1474-1380)までご連絡くださいませ。バザー委員一同お待ちしております。
青山

28年度売り上げトップ商品

 <p>1位 スマホポーチ (1000~1200円) 188点</p>	<p>2位 カード入れ</p>  <p>(500円) 149点</p>	 <p>3位 座布団 (500円) 83点</p>
<p>3位 アクリルたわし (100~200円) 83点</p>	<p>5位 パッチワーク財布 (400~550円) 69点</p>	<p>6位 半(腕)カバー (300円) 55点</p>

売り上げ1位、2位の商品は、お買い上げくださった方からクチコミで広がり、バザー販売だけでなく、個別注文にも対応した結果、売り上げが伸びました。3位から6位の商品は、ここ数年コンスタントの人気商品です。この他、百連鶴、手提げ、お手玉も売れ行き好調でした。かしの木の会手作りの品質を高くご評価いただいておりますことに感謝申し上げます。今後ともご愛顧くださいますよう、よろしくお願いいたします。

かしの木の会コーナー②

20歳の節目を迎えて

数年前の自分は、卒業後働いていると思っていましたが、高等部の途中から体調が悪くなり、らちえつとに行く事を選びました。

私は気圧の変化による不調や体の痛みがあり、余裕のない生活を送っています。体がしんどい時は辛いし、いつまでこの状態が続くのかと泣けてくる事もあります。だけど、応援してくれる人が周りにいて、支えてもらっているおかげで、些細な事に幸せを感じます。

高3の頃には、生活介護という選択肢に対して正直悔しさはありましたが、このような体だったからこそその出会いがあり、今、自分らしくいられる事に感謝の気持ちでいっぱいです。

特にこの1年は、様々な事があり、日々のケアの大切さを知り、現状維持を目標に過ごしています。

時だけが流れ、気付けば成人を迎えた今も人にしてもらえばかりですが、らちえつとに来て、少しずつ前に進んでいると感じるので、これまでの経験を活かして、何か人の役に立てる事をしていきたいと思えます。

前田 花菜



就労1年を振り返って

昨年3月から檜の木園にお世話になるようになった我が家の長男 隆児。

学生時代の隆児は、毎朝パジャマから学生服に着替えてスクールバスに乗って学校に行き、帰日もバスに乗り家に帰って私服に着替えるというパターンで過ごしてきました。学校を卒業し、“朝学生服に着替えない”という事が理解できるのかと思ったのですが、私の心配とは裏腹に毎朝私服を着て楽しそうに檜の木園に通ってくれています。

まだ檜の木園に慣れていない5月の終わりにから6月にかけて、次男の修学旅行があり、私一人で隆児と下の子を見るのが少し難しく、短期入所を初めて利用させて頂きました。下の子はいつも私をお兄ちゃんに取られていると感じているのか、とても嬉しそうでした。しかし私は、「隆児大丈夫かなー」と思って微妙な気持ちで過ごしました。帰ってきた隆児はニコニコ顔で、その後も短期入所の時に使用したカバンを片付けても自分で出てきて服などを積み込む様になってしまいう程、とても楽しかったみたいです。

この春次男が就職し、家でのリズムがまた変わるので、一緒に頑張って早くそのリズムに慣れる様にしていきたいです。

脇田隆児の母



法人コーナー⑦

28年度 榎の木交流会

その日その時間、会場は暑い熱気に包まれる。日時は平成29年1月28日(土)午後6時00分、場所は「尾西商工会館・研修第ホール」、真冬の外気は氷点下に近い。100名を超える参加者は、各々片手に穴のあいた厚紙を持ち、MCの発する数字に神経を集中させている。落胆の声が多い中に、「ビンゴ」と歓喜の声。「榎の木交流会」のメインイベントであるビンゴゲーム大会の光景。この20分程の間は、肩書きも、年齢も、性別も、職場の上下関係も、一切介在しない。無礼講である。

今年の「榎の木交流会」は、慣れない会場にも、長坂代議士はじめ、県議会、市議会議員の方、行政の方、他法人関係の方々、大変多くの方々に参加していただいた。榎の木福祉会からは、法人役員をはじめ、各事業所職員、またかしの木の会の役員、保護者の方がその方々と語り合い交流を持ち、有意義な時間を過ごした。



平成18年に、自立支援法が施工された時、地域福祉は、官民一体となってはじめて推進されるといわれた。行政と民間団体は、車の両輪であり、両方が上手く動いて、車はまっすぐ進む。がちりスクラムを組む必要があるということである。

交流会は、その両輪が動くための、エンジンを動かす潤滑油にも例えられるのではないかと。立場の違う、肩書きが違うその垣根を越えた方々が、自分の意見、気持ちを伝え合える場である。

今年も、あちらこちらで沢山の歓談の輪ができていた。次年度も、地域福祉の重責を担う多く方に集まっていただき、多くの語り合いがもたれ、宴の終盤には、会場のあちらこちらから、一斉に「ビンゴ」と聞こえる会が開くことができたらと思う。

榎の木作業所 只井

第16回

そうぞうのとびら展 を終えて

こんにちは、かしの木の里絵画クラブです。

まだまだ寒さが厳しいですが、このところ日が長くなったように思えます。

かしの木の里絵画クラブでは、1月25日から2月5日まで平成28年度第16回そうぞうのとびら展を三岸節子記念美術館とらちえっと棟交流スペースにて開催しておりました。

寒い日が続く中、沢山の方にご来場観覧いただきましてありがとうございました。

皆様に見ていただいた作品は、かしの木の里で毎月第二日曜日に行っているクラブ活動、絵画クラブに参加し描かれたものです。毎月楽しみにされ、じっくり時間をかけて描く方、ふらっと立ち寄って描いていかれる方、おしゃべりを楽しみに来られる方など、クラブに参加される皆さんは様々ですが、仕



上がった作品はどれも純粹でありのままの姿を表現した絵となっており、季節感やその時の体調、気持ちなど本人の言葉がなくとも伝わるものばかりです。そんな彼らの日常の一部を皆様に見ていただき、感じていただくことができればと思っております。

絵画クラブでは、また次回素敵な作品をみなさんにお届けできますよう楽しみながら活動を続けて行きたいと思っております。ぜひまた足をお運びいただきご覧いただけますようよろしくお願いいたします。

かしの木の里 絵画クラブ

お知らせコーナー 【 行事予定 4月~6月 】

かしの木の会 総会

日時・・・4月22(土) 10:00~
 場所・・・一宮市役所・尾西庁舎
 生涯学習センター
 6F 大ホール



かしの木運動会

日時・・・5月28日(日) 10:00~
 場所・・・富田山グラウンド

かしの木の会への新規加入・更新

《 年会費 》

活動会員 一口 2,000円

購読会員 一口 1,000円

《問い合わせ先》

かしの木の会事務局

TEL 0586-63-2111

FAX 0586-61-1200

よろしくお願いたします

開催日のお知らせ

福祉マルシェ

i・愛・逢マーケット

会場 名鉄百貨店一宮店東玄関前

4月・・・18日(火)・19日(水)

5月・・・16日(火)・17日(水)

6月・・・20日(火)・21日(水)

皆さん、ぜひお越しください

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木の会 事務局	〒494-0018	愛知県一宮市富田字砂原2147番地	Tel 0586-63-2111
		法人本部事務局内	Fax 0586-61-1200
榎の木福祉会 (法人本部)	一宮市富田字砂原2147番地		Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200
☆榎の木作業所・どんぐり	一宮市富田字漆畑16番地		Tel/Fax 0586-61-6055 / 61-6514
☆榎の木園	一宮市富田字若宮17番地		Tel/Fax 0586-62-8202 / 62-8253
☆ステップ	一宮市明地字上平35番地の1		Tel/Fax 0586-68-1207 / 68-1241
☆かしの木の里	一宮市富田字砂原2147番地		Tel/Fax 0586-63-3270 / 61-1200
☆かしの木サポートプラザ	一宮市北丹町2番地		Tel/Fax 0586-28-8288 / 28-8188
☆らちえっと	一宮市富田字砂原2147番地		Tel/Fax 0586-62-6117 / 61-1200
☆らでうす (H29.4~)	一宮市富田字砂原2141番地		Tel/Fax 0586-63-1631 / 63-1633
☆喫茶・らちえっと	一宮市富田字砂原2147番地		Tel/Fax 0586-62-6135 / 61-1200
☆カフェ ふらっと	一宮市萩原町串作字女郎花1617番地8		Tel 0586-67-5070
☆園芸センター さいた	一宮市西五城字山方21-1		Tel/Fax 0586-62-0039
☆わがんせ	一宮市祐久字九百坪204		Tel/Fax 0586-68-2700 / 68-1250
☆相談支援 ゆんたく	一宮市大和町馬引字引郷裏42		Tel/Fax 0586-64-5882 / 64-5852
☆就業・生活支援 すろーぶ	同上		Tel/Fax 0586-85-8619 / 64-5852
☆療育サポートプラザ チャイブ	一宮市北丹町2番地		Tel/Fax 0586-28-8288 / 28-8188
☆居宅介護事業所 きーぶ	一宮市富田字砂原2147番地		Tel/Fax 0586-63-2122 / 61-1200
☆G. H. C はぎわら	一宮市萩原町串作字女郎花1616番地3		Tel 0586-67-1787
☆G. H. C びさい	一宮市祐久字九百坪97		Tel 0586-68-6505
☆G. H. C やまと	一宮市萩原町串作字女郎花1616番地3		Tel 0586-67-1787